令和８年 10 月５日

第３学年保護者様

加古川市立平岡中学校
校長　　松浦　幹雄

令和８年度 全国学力・学習状況調査 結果分析報告書

秋晴の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本校教育活動に深いご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、４、５月に実施しました全国学力・学習状況調査（生徒質問用紙・国語・数学・英語）の結果が返送されてまいりました。調査結果について、第３学年生徒の学力・学習状況の報告をさせていただきます。

以下、本年度の本校の調査結果を考察いたしましたので、その結果についてお知らせいたします。

1. 平岡中学校が誇る「生徒たちの確かな土台」

今回の調査結果から明らかになったのは、平岡中学校の生徒たちが良好な「心の基盤」と「生活習慣」を築いているということです。全国や県の状況と比較しても、本校の生徒たちは非常に安定した状態にあります。数値という形を超えて、以下の４つの大きな強みが土台となっています。

- 高い自己肯定感：自分自身の良さを認め、先生や友達からも大切にされていると実感している生徒が多く、自分に自信を持って日々を過ごしています。
- 安心できる学級環境（心理的安全性）：多様な意見を尊重し合い、「人と違う意見を言っても否定されない」という温かい空気感がクラスの中に根付いています。
- 規則正しい生活リズム：朝食の摂取や起床時刻が非常に安定しており、日々の活動を支える健康的な生活基盤が、ご家庭の深い愛情と協力のもとで整っています。
- 自律した学習習慣：人から教えられるのを待つだけでなく、分からないことを自分で工夫して学ぼうとする「学びの主導権」を生徒自身が握り始めています。

このように安定した生活・心理的基盤は、学習面においても着実な成果として表れています。

2. 教科別分析：目に見える「成果」と、さらなる「伸びしろ」

各教科の結果を分析すると、基礎的な知識の定着という土台がある一方で、それを「自分の言葉で説明しきる」という点に、今後の飛躍的な成長のチャンスが隠されていることが分かります。

教科	確かな成果（強み）	これからの成長ポイント（課題）
国語	漢字や語句の使い分けといった基礎力が極めて高く、相手に配慮した豊かな表現の工夫に優れています。	自分の考えを最後まで書ききる粘り強さと、本文のどこを根拠にしたのかを具体的に示す力に伸びしろがあります。
数学	計算や用語の理解といった基礎学力が非常に充実しています。図形領域などで育まれた「論理的な思考力」は既に備わっています。	「間違えたくない」という不安から記述を諦めず、頭の中にある論理的な筋道を「言葉や式」として出力する練習が課題です。
英語	リスニングで状況を捉える力や、自分の考えを即興で伝えようとする意欲が非常に高く、生きたコミュニケーション力が育っています。	意見に対して「なぜなら（Because...）」と根拠を添えて、論理的に文章を組み立てる記述力の向上が期待されます。

これらの課題は、決して「力がない」ということではありません。むしろ、頭の中にある確かな考えを「どう使い、どう外へ出すか」という実践的な力を育む絶好のチャンスです。この伸びしろを確かな自信に変えるため、学校では以下の取り組みを強化してまいります。

3. 学校としての取り組み：お子様の「書く・伝える」を支える 3 つの柱

学校では、記述問題への心理的なハードルを下げ、論理的な思考を言葉にする力を高めるために、日々の授業スタイルを次のように改善していきます。

(1) 記述のハードルを下げる工夫：「何から書けばいいか分からない」という不安を取り除くため、文章のテンプレートや段階的なワークシートを活用します。まずは短い言葉から、そして形式に沿って書く練習を重ねることで、「まずは自分の考えを形にする」姿勢を育みます。

(2) 対話的な学びの推進：ただ一つの正解を求めるだけでなく、生徒同士で「どうしてそう思ったの？」と問いかけ合う時間を充実させます。自分の考えを他者に説明するプロセスを通じて、客観的な根拠に基づいた論理的な説明力を磨きます。

(3) ICT（一人一台端末）の日常活用への挑戦：本校では現在、デジタルを「文房具」のように使いこなす環境づくりを意欲的に進めています。タブレット端末を使って自分の意見をスライドにまとめたり、友達の考えを画面上で相互に評価したりする活動を日常化し、表現の幅を広げるためのアップデートに全力で取り組んでまいります。

4. ご家庭でできる「問いかけ」とサポート

お子様の学びを支える最大の要素は、日常の対話です。点数という結果に捉われるのではなく、以下の 3 つの観点で温かい声かけをお願いいたします。

- 「なぜ？」と根拠を聞く：日常のニュースや出来事について話す際、結果だけでなく理由を尋ねてみてください。

  【問いかけの例】「どこを見てそう思ったの？」「どうしてその結論になったのか、詳しく教えてくれる？」
- 「書こうとしたプロセス」を承認する：正解かどうかよりも、自分の考えを言葉にしようとした姿勢そのものを褒めてあげてください。評価の視点を「結果」から「工夫」へとシフトさせることが、折れない自信に繋がります。

  【声かけの Before / After】 Before: 「いい点数だったね、頑張ったね！」 After: 「答えを出すために、色んな資料を使って自分で調べ方を工夫したんだね。そのやり方、すごくいいと思うよ！」
- 「学びと社会」を繋ぐ対話：大人の仕事や生活の中で、学校での学びがどう役立っているかを伝えてください。特に数学については、日常生活の数字を話題に出すことが有効です。

  【問いかけの例】「天気予報で『累積降水量』って言っていたけど、これって数学で習ったあの考え方だよね」「お父さんの仕事でも、この論理的な説明の仕方がすごく役立っているんだよ」

こうした家庭での温かい関わりが、お子様の「間違えてもいいから表現してみよう」という勇気を育み、将来の自信へと直結していきます。

5. 結びに

今回の調査結果は、決して他者と競うためのものではなく、お子様が現在持っている「ポテンシャル」と、これからさらに輝かせるべき「伸びしろ」を確認するための羅針盤です。

平岡中学校の生徒たちは、全国に誇れる高い自己肯定感と自律した学びの姿勢を持っています。この豊かな才能を、数値という結果だけで判断するのではなく、学校と家庭が手を取り合って「自信」という形へ変えていきたいと考えています。保護者の皆様には、日頃より多大なるご理解とご協力をいただき、深く感謝申しあげます。私たち教職員一同、お子様の最も身近な伴走者として、共に応援し、全力でサポートして参ります。今後とも、どうぞよろしくお願い申しあげます。